

北陸農政局長賞受賞

～G I を起爆剤とした産地再生による豊かなむらづくり～

受賞者 **J A 志 賀 ころ 柿 部 会**

(石川県^{はくいぐんしかまち}羽咋郡志賀町)

■ 地域の概要

「J A 志賀ころ柿部会」が属する旧志賀町地区は、石川県羽咋郡志賀町の南半分を占めており、「ころ柿」は西部丘陵地（中山間地域）において生産されている。

昭和30年代までは、農家の冬期間の副業として散在的に栽培される程度であったが、昭和40年代の贈答用需要の増加を背景に、稲作農家の複合部門としてころ柿生産に取り組む農家が増加した。



■ 主なむらづくりの内容

平成5年、「J A 志賀ころ柿部会」が設立され、7万箱を出荷する一大産地であったが、20年後には高齢化等により、出荷量がほぼ半減する。危機感をもった部会員は、関係機関等を巻き込み「ころ柿の里しか産地再生プロジェクト」を立ち上げ、若者にも魅力を感じる農業を目指す。伝統の加工技術で生産されるころ柿は、品質面でも高い評価を受け、平成28年10月には「能登志賀ころ柿」としてG I 登録された。

G I 登録を契機に、首都圏や海外でのプロモーション活動を展開するとともに、加工体系の見直しや労力補完の仕組み作りなどにチャレンジした結果、ブランド力の向上や生産安定に弾みがついた。

また、これらの取組と成果により、部会員が増えた他に、食育の実施、包装デザインや雇用における地元人材の活用で、多くの住民が関わることで地域が活性化し、ころ柿産地の再生への道を歩み始めている。



写真1 パッケージデザイン



写真2 海外プロモーション



写真3 地域住民を雇用